

一般社団法人 廃棄物資源循環学会 東海・北陸支部

～ 令和6年度市民フォーラムと定期総会開催のご案内 ～

日本の国土は、昔から自然災害が多く、それに伴い数々の被害を受けてきました。また同時に、四季折々の恵みに畏敬の念を抱きながら暮らしてもきました。

東日本大震災では、災害廃棄物が復興の大きな障害となりました。災害時に大量に発生し、適切な処分場所や方法がなく、環境汚染や感染症のリスクを高めました。また、災害廃棄物の撤去や運搬には多くの人員や広域処理が必要で、復興事業の遅れにつながりました。そのため都市部では、東日本大震災の反省を踏まえ、危機管理体制を整備してきましたが、**能登半島地震**では、地方部の危機管理体制が整っていない、まだまだ整備の必要があることが明らかとなりました。近年発生すると予想されている南海トラフ地震に向けて、地方部の危機管理対策を強化する必要があります。

一方、愛知県では、「自然と共生する社会」をテーマにした愛知万博が開催されました。その跡地利用として、環境に配慮した「愛・地球博記念公園（モリコロパーク）」という自然豊かな**都市計画公園**が作られました。大阪万博では、跡地利用として、埋め立て場の上に作られた人工島に、国際交流やイノベーションの拠点となる施設の建設が予定されています。これらの施設は、環境負荷を低減し、再生可能エネルギーを活用するなど、持続可能な社会づくりに貢献することが期待されています。

以上のように、**災害廃棄物の処理と跡地利用**は、災害復興や環境保全において重要な課題です。災害廃棄物の処理では、事前準備や迅速な対応が必要です。跡地利用では、環境に優しい施設や活動が求められます。これらの課題に対して、廃棄物資源循環学会を介して、自治体、大学、民間企業や市民団体が積極的に参加して「ひとづくり」、「ものづくり」を行い、結果として、「**持続可能な資源循環**」へと繋がっていく必要があると考えられます。

今回、能登半島地震の被災地状況や愛知万博の跡地利用における環境保全等の講演会を聞き、環境分野の知見を深め「今後の東海・北陸支部の取り組み」のヒントにします。

メインテーマ

『「ひとづくり」と「ものづくり」を 「持続可能な資源循環」へと繋げる』

■ 開催日：令和6年6月22日（土）

市民フォーラム 13時00分～17時50分

定期総会 11時00分～11時30分